

1 ミズナラ等の木材生産管理と自然環境の保全調査(第5報)

予算区分：県 単
担当科名：森林育成科

研究期間：平成 10～14 年度
担当者名：小谷 二郎
千木 容

．目的

本県の冷温帯地域の代表樹種であるミズナラ等の天然生林の有効利用と自然環境を保全するため、林分構造調査や林内での更新状況に関して調査を行う。

．調査地および調査方法

今年度は、石川県内 40 箇所の二次林で毎木調査（一部伐採し樹幹解析）を実施し、ミズナラを主とする広葉樹林の地位指数曲線と林分収穫表の作成を試みた。

また、ミズナラ・イタヤカエデ・ミズメ・ブナの植栽木または天然更新稚樹の光環境と伸長量の関係を調査した。

その他、ミズナラ・ミズメの天然更新試験地を設定した。

．調査結果

ミズナラの県内の分布状況から、良好な林分は 700m 以上の標高域に多く、しかもこの標高域では有用な広葉樹の混交率が高いこともわかった。

ミズナラの地位指数曲線から、80 年生での樹高成長を比較したところ、地位上で 24m、地位中で 20m の成長が見込めることがわかった。地位中では、100 年生で上層の優勢木が胸高直径 36cm で 350 本/ha 収穫が見込めることがわかった。

．今後の課題

本調査は、今年度で終了するが、ミズナラ・ミズメの天然更新試験地は今後も引き続き生育経過を観察する。また、ミズナラ・ブナなど豪雪地帯の広葉樹林の施業方法についての技術指針をまとめる予定である。